

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和3年度第1回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和3年7月7日（水）10時00分～12時20分
開催場所	四番丁スクエア 1階 第1会議室
議 題	(1) 令和2年度事業決算報告 (2) 令和3年度事業予算報告 (3) その他 (4) 高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 審査
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	高松市情報公開条例（第7条）に該当
出席委員	谷委員、穴吹委員、井藤委員、英委員
傍聴者	0人（定員 2人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過および審議結果

（事務局）
高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項の規定により、会議成立の報告。

高松市情報公開条例第7条に該当するため、議題（4）高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査について、非公開とすることを決定。

議題（1）令和2年度事業決算報告
令和2年度事業決算について、事務局から報告。

【伝統的ものづくり夏休み親子体験教室について】
（委員）

伝統的ものづくり夏休み親子体験教室について、リーフレットを廃止して、SNSを活用して告知したが、結果はどうだったか。また、学校配布の影響力は強いと思うが、今年の募集はどうするのか。

（事務局）
昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のための自粛の影響もあり、申込者数は激減した。今年度については、既に広報たかまつやSNSで募集を開始しており、順調に申込を受け付けている。

【伝統的ものづくり振興事業補助金について】
（委員）

今年度も3者応募で、応募数が少ないと感じている。事業者が実質的に何を望んでいるのサーチして、改めて再設計してみてもいいのではないかと。補助率は単純な魅力になると思うが、根本的な魅力についてもうちょっと議論すべきと思う。

（事務局）
今年度は、全く新たな方が募集していただいております、少しずつこの補助金制度が広まってきていると考えています。

審議経過および審議結果

審査、成果発表時に、コメントやアドバイスをいただいて、それを事業者にお返しする制度を今年から始め、一つの魅力にしたいと考えている。

(委員)

本来的には、人づくりの推進、事業継承にまで及んでいる制度だと思う。しかし、その部分の応募が少ないことが以前から気になっている。伝統的ものづくりにとって、人づくりが本当は何よりも大変で、一番自社だけで行うことが難しいと思う。産地である高松の事業者が、事業を継承してもらおう、若しくは、研修を受けることに対して、生活費までは難しいかもしれないが、何らかの補助について、もう少し門戸を開いてあげることが必要ではないのか。条例上難しいのか。

(事務局)

条例の基本的施策としても、人づくりの推進に取り組むことになっており、研修への派遣については、以前にも本補助金を利用していただいている。後継者の育成については、産地への受入には多額の費用がかかり、本制度の補助額では少ないという話も聞いているが、香川漆器や庵治産地石製品の産地組合様は、額の大きい伝統的ものづくり産業発展事業補助金を利用して頂けるようにしており、昨年より漆器組合様が木地作りの職人を育てる取組をされている。

(委員)

組合に所属している事業者であれば、人づくりや事業継承に取り組みやすいかもしれないが、この補助金のポイントは、ニッチな業種の事業者にも、50万であるが平等に補助が行えるところ。それが補助率1/2でも、事業費全体として100万使え、相当な事業費にはなると思う。

(事務局)

長い期間をかけて技術を学んでもらう場合、この補助金の制度では難しいと感じている。

通常、県や市での事業者支援の補助金では、当該企業の人件費を対象経費とすることはまずない。成果の確認や評価をどのように行うかなどの課題もあると思うが、人づくりを応援することは大事だと考えており、勉強していく。

議題(2) 令和3年度事業予算報告

令和3年度事業予算報告について、事務局から報告

【伝統的ものづくり学校巡回教室及び夏休み親子体験教室について】

(委員)

学校巡回教室の実施校は3校だったということか。要望は多いのか。

(事務局)

9校から希望が出ており、学校と事業者の都合のつく日で日程調整し、3校に決定している。

(委員)

夏休み親子体験教室と学校巡回教室では、同じ「普及啓発」を目的としながら、予算額の桁が異なっており、予算に大きな差があるが、どういうことか。

(事務局)

夏休み親子体験教室は材料費を参加者に負担していただいております、高いもので3,000円負担いただいております。

学校巡回教室は、大きな展示用の盆栽を持ち込んで頂いたり、石を割る体験を行うための大きな石を持ち込む費用を、開催経費として委託料に含んでいるため、金額に大きな差が出ている。

【伝統的ものづくり産業発展事業補助金について】

(委員)

振興事業補助金の利用事業者が、結果として石材と漆器であるならば、補助額の大きい産業発展事業補助金の自由度を高めて使って頂けないのか。

(県経営支援課)

自由度は高くしている。ただし組合の性格上、個別事業者の支援や、先進的な、新製品開発等には手が回らず、全体の底上げに使うようにならないか。団体補助で全体の底上げ、個別補助で個店の魅力向上と、両面で進めている。

【伝統的ものづくり振興事業補助金について】

(委員)

市内県内含めて小規模の事業者と話していると、この補助金のことを知らないケースが多い。特に組合がなく1社でされているところが当てはまるが、この申請書を出そうとした場合、申請書が面倒で、発表も自分たちではとてもできないといった話もある。企業努力も必要だが、そこに壁があると感じる。デザイナーやコーディネーターにもパンフレットを配布したらどうか。

(事務局)

漆器や石材以外の個人事業者からの応募は少ない。デザイナーやコーディネーターは補助対象としていない。デザイン協会等にも周知を考えていきたい。

(委員)

事業者の成果発表を動画に撮って配信するなど、補助制度のPR事業が必要だと思う。

(事務局)

昨年度から事業の公表の了承をいただくようにして、昨年度の成果はホームページに写真付きで掲載している。成果発表の配信をできるかどうかは、発表される事業者の同意が必要になってくる。

制度の周知については、県の伝統工芸士の皆様に文書で送付する他、メルマガジンでもお知らせをしており、メルマガの登録者数を増やすことにも力を入れていきたい。

(委員)

メールを出しても、メールを見ていないという事業者が多く、難しい。他県では、県や市の方が動いて、制度を1件1件ご説明するみたいなことを結構やっていた。制度や申請書の書き方を説明するなど、中小の事業者に対してケアをしてはどうか。

【高松盆栽振興事業について】

(委員)

今後もこの程度の予算が確保できるのか。予算が途切れると、急に活動

が衰退していくと思う。自立計画の様なものが必要になると思うが。

(事務局)

予算については、地方創生の国の事業で5か年取り組んでおり、今年が最終年になっている。次年度以降については、県や盆栽の生産者と話を進めて内容を検討している段階であり、正確な額は決まっていない。

(委員)

生産者の方々はどのような反応か。

(事務局)

黒松の輸出が解禁になり、鬼無国分寺地区は黒松の生産の比率が高いため、黒松は若干輸出で光が見えてきたか、という状態。輸出のパイプを深くしていきたいという意見もある。

生産者の方がよりやりたいことなど、丁寧に意見を聞きながら、来年度以降に向けて調整を図っていきたい。その先に自立があるという視点も踏まえながら調整している。

議題(3) その他

(オブザーバー)

オブザーバーの皆様より御意見等をいただく。

議題(4) 高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 審査
補助金審査を実施。